



ドールをつくる会、開催広がる

高校生からシニアまで 企業はオンライン活用

夏から秋にかけてコロナ渦が落ち着きをみせはじめると、学校や企業で「キワニドールをつくる会」を開催する動きが復活し、広がりを見せています。高校生、大学生からシニアまで、担い手の年齢は幅が広く、オンラインを活用して開催する学校や企業もあります。完成したドールは病院に入院している子どもたちに贈られます。
(ボランティア活動委員会)

高校

千葉県立検見川高校

千葉県立検見川高校の生徒は男子も女子も1人1台のタブレット端末で「つくり方」の動画を見ながら、ドールづくりに取り組みました。全員初めてとあって、綿詰めも、脇を手縫いする作業も苦労しながら完成させました。手縫いがうまく出来ていないドールは指導に当たった先生がきちんと修正してから送ってくれました。



大学

明治薬科大学



明治薬科大学は久しぶりに対面で「つくる会」を開催、3年生以下で構成するサークルの参加学生にとって初めての体験でした。普段はインターンで忙しい4年生、5年生の先輩がこの日は1人ずつ参加。この2人はこれが3回目とあって、さすがに手際がよい。初めての学生たちも2時間できれいに綿詰め、脇綴じを終え、ドールを完成させました。

シニア

自由学園 リビングアカデミー

自由学園のシニアカレッジ「リビング・アカデミー」では50歳以上の学生有志がドールづくりの自主活動サークルを結成しました。布の裁断、ミシン掛けから綿詰めまで“一貫生産”するのが特徴です。「仕事をリタイアして時間があまる私たちにとって、こういう社会貢献の機会はある」と月1回のペースで活動を続けています。



企業

株式会社

東京のオフィスと滋賀県の工場をオンラインで結んで「つくる会」を開催しました。工場に参加した社員は画面を見ながら、作り方の指導を受け、ドールづくりに取り組みました。オンラインシステムが整っている企業では、地域や事業所を超えてのドールづくりも可能になってきています。



キワニスドール・フェスティバル2022 2022.5.21.

「入院中の子どもの様子」「作り手の苦勞」相互理解進む

第13回のキワニスドール・フェスティバルは昨年に続いてオンラインで開催され、ドールの作り手と、寄贈先の医療関係者、全国のキワニスクラブ会員ら80人が集まりました。

入院中の子どもたちがドールから元気をもたらしている様子が紹介された一方で、オンラインを活用しながらコロナ渦の中でドールをつくる苦勞も知ることができ、作り手、使い手の双方が理解を深める機会となりました。



千葉県こども病院 チャイルド・ライフ・スペシャリスト

大橋 恵さん

検査：採血



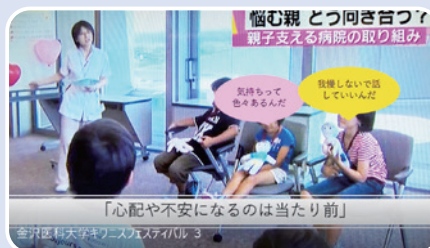
チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)は病気のこどもが直面する痛みや困難を乗り越えられるよう心理的に支援する専門職で、日本では全国35施設で49人が活躍中。

活動の内容は手術・治療への心の準備、検査・治療中の心理的サポート、治癒を助ける遊びなど幅広いが、この病院ではそのすべての機会できわニスドールを使っています。例えば、ドールを病気の子どもの見立て、お医者さんごっこのようにして採血の注射や、検査などの方法を理解してもらっています。

ドールは病気の子どもの兄弟のためにも使われます。気管を切開してカニューレという管を装着した赤ちゃんが退院してくる前に、2人のお兄ちゃんには管を取り付けたドールを使って、管を引き抜いたりしないよう事前に説明。いざ退院してくると「同じだ」「大事だよ」と言いながら、家庭で妹をお世話してくれる様子を話してくれました。

金沢医科大学病院 精神神経科学 公認心理師

橋本 玲子さん



癌患者を親に持つ小学生までの子どもたちを支えるのにもキワニスドールは使われています。

子どもに親の癌をどう伝えるか、伝えないと不安も広がります。「まずドールの顔を描いて、自分の相棒にします。学習タイムでは癌になるのは誰のせいでもないことや、手術、放射線治療、化学療法などがあることを学びます。次は病院探検。治療の機械などを見て回り、多くのスタッフが助けてくれることを知ります。相棒のドールを使って点滴もやってみます」。こういう経験から親子で気持ちを伝えやすくなり、「子どもがピンチを乗り越える力を伸ばすのにドールは役立っている」そうです。

双葉の園保育園 園長・西 大記さん 園長補佐・川合 まりえさん 保育士・木崎 絵里香さん

この保育園では親がキワニスドールの洋服を手作りして、一人一人の子どもが自分のドールを大切にしています。「裁縫は学校の家庭科以来という方や、父親が仕上げたという家庭もある。何かを仕上げる、自分の作ったものを子どもがうれしそうにしてくれる、そんな時、親として幸せな気持ちになる」そうです。

子どもたちは「外で遊ぶ時も、お昼寝の時も、肌身離さずドールと一緒に」という状態。

手を洗う間もズボンの後ろにドールを挟んでいます。



西園長は「中には耳をつけてうさぎにしたり、パンダにしたりといった工夫をしている親もいる。ドールは子どもたちの心に、とてもよい栄養となっていて感謝だ」というメッセージを寄せました。

明治薬科大学

小児医療支援サークルChaid代表

山田 乃愛さん

薬剤師の仕事も小児医療の視点が必要だと考え、毎年、キワニスドールづくりに取り組んでいます。コロナ渦で例年のような教室での対面の活動が困難になったため、オンライン方式を検討しました。東京キワニスクラブの方に作り方を動画にしてもらい、参加者を募集、人数分の材料を代表が預かり、参加者の住所に一つずつ郵送する方式をとりました。「全員が同時につくるのではなく、日程をいくつか設け、ZOOMで画面を共有し数人ずつで話し合いながら作成しました」。反省点として「材料を送るのも、できたドールを集めるのも郵送だったので、時間も費用もかかったこと。縫い目や綿の詰め具合が十分でないものをやり直す作業が代表に集中してしまったこと」などを上げました。オンラインならではの苦勞をしながら、やり遂げた様子が参加者にもよく伝わりました。

寺子屋 in 妙法寺

コロナ禍が始まって3年目になるが、妙法寺(杉並区堀ノ内)での「寺子屋」は、土曜日に近隣の子どもたちが集まり、密を避けながら勉強に励む姿が定着しています。夏休みの平日に開催する寺子屋は特に参加者が多く、今年も盛況でした。普段の寺子屋も、毎月、誕生日のお祝いを始めたり、ランチのメニューを工夫したりするなど、どんどん進化し、子どもたちの笑顔が広がっています。(事業企画委員会)

夏休みの寺子屋 2022.7.25~26 別室を2部屋用意、密を避け宿題に集中

毎年恒例、「夏休みの寺子屋」は、普段と違って平日に開催。初日は快晴、2日目は強い雨でしたが、両日ともに60人ほどの子ども達が参加しました。コロナ禍を考慮して、密にならないよう、いつもの会場とは別に2部屋を用意、分かれて宿題に取り組みました。

漢字ドリルや計算ドリルなど学校の宿題、塾の宿題、読書感想文を書くための本を持参する子もいます。夏休みに入ってすぐに宿題に取り掛かるきっかけになるということで、保護者の期待も大きい催しです。仲良しの話し声が消えて、みんな集中します。進捗は集中度合いに比例、「大体終わったよ」「まだまだ残っている」と違いはあるが、勉強する習慣をつけるには効果があるようです。持参した勉強が終ると塗り絵、折り紙と、急に賑やかになります。

初日の昼食は「冷しゃぶうどん」。トッピングは豚肉、たまご、天かす、薬味。子ども達は何回もお代わり。食後はお寺の庭の休憩所で「かき氷」。夏空の下で、みな大喜びでした。

2日目の昼食は「冷し中華とポテト」。トッピングはキュウリ、ハム、たまご、トマト。食後は「ソフトクリーム券」を貰って近くのお店で受け取りました。

両日とも近隣の立正高校の生徒が引率の先生とともにボランティアの勉強として参加しました。また小学生時代は寺子屋の常連だった中1の女子が今回は「お手伝い」としてやって来ました。「寺子屋は懐かしいが、中学校も楽しい」そうです。

寺子屋は近隣のNPOとの共催。集まったスタッフはのべ23名、東京キワニスからは初日に7名、2日目は4名の会員が参加しました。



毎月、誕生日の友だちをお祝い

5月から寺子屋に参加する子ども達の誕生日会を開始しました。昼食の前に「ハッピーバースデーの音楽」で始まります。原則は月1回だが、子ども達の参加具合で複数回の月も。誕生日会が出来なかった月は、翌月にまとめてお祝いします。最近「誕生日会での写真付きバースデーカード」が用意され、子ども達は自慢げに皆に見せています。

祝ってもらった子どもの嬉しそうな顔を見て、お祝いする側も嬉しくなる。喜びを共有することにより、利他的な気持ちを養っていくことができます。



メニューを工夫 子どもたちに人気

昼食は子ども達の楽しみの1つ。毎回NPOの女性スタッフが交替でメニューを考え、自宅でご下ごしらえをして妙法寺に持参、会場で11時ごろから料理を仕上げます。盛り付けはキワニス会員を含め男性スタッフも手伝って準備します。

食事のメニューは、バリエーションが豊富で、ボリュームのあるものが多い。サラダも定番です。最近は準備した分が完食という日が目立ちます。食後のスイーツは子どもが大好きです。共催のNPOのスタッフが別のイベントと重なって来られない時は、キワニス会員のがんばりが必要。最近は料理姿も様になっています。



青少年教育賞 国際協力NGO「風の会」

第37回青少年教育賞の最優秀賞は、カンボジア、ラオスの子ども達の支援に当たっている「国際協力NGO風の会」に贈られました。早稲田大学を中心に他大学の学生も参加、学校建設、校舎改築などハード面に加え、衛生セミナーなどソフト面の支援もしています。今夏もコロナ禍の中で両国を訪問したほか、オンラインを活用して日本の子供たちとの交流事業も進めて来ました。ラオスの布生産者を支援するため、その布を使って日本国内で作品コンテストも開催しました。(青少年教育委員会)



授賞式

2022.10.21.

社会公益賞

「おもちゃと絵本の部屋 おおきなき」

第56回社会公益賞は、任意団体「おもちゃと絵本の部屋 おおきなき」に最優秀賞が贈られました。この団体は、障害のある子ども、ない子どもと一緒に活動できるスペースを週一回提供、肢体不自由な児童が自力で操作できる玩具の提供、絵本の貸し出しも行っていきます。(社会公益委員会)



チャリティコンサート 2022.6.18 会員のピアノ連弾を楽しむ

会員の親睦・交流と子ども支援の資金確保の一石二鳥を目的とする「キワニス・チャリティーコンサート」が6月に開催されました。会員経営の企業が所有する汐留のホールを会場に、漆間蔵会員、荒木なぎさ会員の2人によるピアノ連弾に、参加した22人の会員が耳を傾けました。



会員みんなでキワニスワンデー 2022.10.21.

世界中のキワニスクラブ会員が同じ日にボランティア活動に取り組む「キワニスワンデー」。東京キワニスクラブはこの日の例会後に会員が集まって約1時間、ドールづくりの前工程の作業をしました。主な仕事は綿の重さを測りながら小分けする作業と、人形のかたちに縫った布を裏返す作業。ベテラン会員も、新入会員も協力して取り組むことができました。

(ボランティア活動委員会)



会員有志で「子ども研究会」発足 貧困・虐待から教育まで理解深める

東京キワニスクラブは「世界の子どものために」のスローガンを掲げ、子ども支援を活動の柱にしている以上、子どもを巡る諸課題について会員一人一人がもっと理解を深める必要があるのではないかと。そんな思いから、2022年の年初に会員有志による「子ども研究会」を発足させました。月1度、対面またはオンラインで会合を開き、

会員自身の勉強の成果を発表したり、専門家の話を聞いたりしています。

子どもの貧困、児童虐待などの問題だけでなく、子ども家庭庁の設置とか、探求学習を重視する最近の学校教育にも関心を寄せ、幅広いテーマを扱っています。

まだ学びを始めたばかりですが、会員の意識や関心は確実に高まってきています。今後その成果をクラブの活動にどう活かしていくか、検討していくこととなります。

金曜昼の例会

第1・3・5週の金曜に学士会館で例会を開催、ランチをとりながら識者の卓話を聞き、会員相互の交流を深めています。最近の卓話の講師と演題は次の通り。

- 井上淳会員 (日本チェーンストア協会専務理事)
消費者志向経営のその先に～流通業界の変遷と課題
- 佐々木信行会員 (公益財団法人セコム科学技術振興財団理事長)
おきなわ感懐録ー復帰50年の5月に
- 大嶋英一会員 (日本ヴェルディ協会理事)・足立歌音氏 (ソプラノ歌手)
オペラの魅カークイタリヤの巨匠ヴェルディを中心に
- 常盤木祐一氏 (文部科学省初等中等局教育課程課長)
これからの学校教育～学習指導要領の考え方～
- 翁百合氏 (日本総研理事長)
コロナ後の日本社会の課題
- 武濤雄一郎氏 (一般財団法人高度技術社会推進協会 (TEPIA) 常務理事)
TEPIA先端技術館の青少年向け事業
- 増田好平会員 (元防衛事務次官)
安全保障・防衛にまつわるいくつかの私のつぶやき
- 市川一宏氏 (ルーテル学院大学前学長)
コロナ禍における地域ケアの現状と新たな取り組み
- 安好寿也氏 (特定非営利活動法人キッズデザイン協議会 専務理事)
キッズデザインとキッズデザイン賞
- 月本昭男氏 (公益財団法人古代オリエント博物館館長・立教大学名誉教授)
人類と福祉
- 後藤啓二氏 (NPO法人シンクキッズー子供虐待・性犯罪をなくす会代表理事)
子どもを虐待・性犯罪から守るためにー子ども家庭庁設立を機に

VIPサロン

ZOOMを使ってオンラインで会員の話を聞く「VIPサロン」が始まって1年半が過ぎました。この間、会員が交代で講師を務めてきたが、8月には初めての試みとして外部の講師が登場。いじめの問題について大学の研究者から話を聞きました。このVIPサロン、コロナ禍が一段落しても、継続する予定です。

編集後記

寺子屋では毎回、ランチのメニューを工夫していますが、育ち盛りのはずなのに「ご飯少なめ」という子どももいます。大人は「偏食はだめだよ」「おなか一杯食べて大きくなって」と思うのですが、アレルギーの子もいるから注意が必要です。それでも「お代わり」と言う子どもも多くいて、用意した食事は完食。「フードロスを出さなくてよかった」。ほっと一安心です。

国際懇話会

第93回 2022.5.16.

- 藤崎一郎氏
(元駐米大使、中曽根平和研究所理事長)
「侵略するロシア、変わる米国、苦悩する中国、日本は？」

第94回 2022.7.22. (昼開催)

- フランツ・ヴァルデンベルガー氏
(ドイツ日本研究所所長)
「日本が直面している挑戦ー産業組織・雇用システムの観点から」

第95回 2022.10.3.

- 袴田茂樹氏
(青山学院大学名誉教授)
「先祖返り」した国際情勢と日本の「平和主義」ーロシアのウクライナ侵攻

新入会員紹介

- ・森隆志 (もり たかし)
入会日 2022年 5月13日
- ・谷口浩章 (たにぐち ひろあき)
入会日 2022年 6月 3日
- ・鈴木伸弥 (すずき のぶや)
入会日 2022年 8月19日

物故会員

- ・西本綱三 2005年 2月 2日入会
2022年8月30日にご逝去されました。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

事務局便り

コロナ禍に悩まされて3年。キワニスの例会やイベントも感染者数が増えてくると開催できなくなり、急いで中止を連絡することが何度かありました。しばらく会えない間に体調を崩す会員がいらないか、心配になります。来年こそ中止のお知らせをしなくて済むように、そしてマスクなしでお会いできる日が来るようにと願うばかりです。